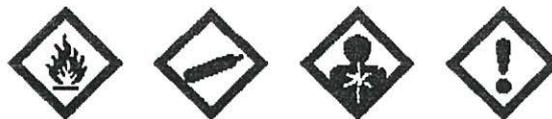




環境有害性	特定標的臓器／全身毒性(単回ばく露) 区分 2	
	特定標的臓器／全身毒性(反復ばく露) 区分 1	
	吸引性呼吸器有害性	区分 1
	水生環境有害性・急性	分類できない
	水生環境有害性・慢性	分類できない

## GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性／引火性の高いエアゾール  
 加圧ガス／熱すると爆発のおそれ  
 吸入すると有害  
 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ  
 軽度の皮膚刺激  
 眼への刺激  
 遺伝性疾患のおそれの疑い  
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
 臓器(肺)の障害のおそれ

注意書き

長期または反復暴露による臓器(肺、皮膚)の障害

**【安全対策】**

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。  
 一禁煙  
 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 加圧容器: 使用後も含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。  
 スプレー、霧(ミスト)を吸入しないこと。  
 眼に入らないようにすること。

**【応急処置】**

火災の場合には適切な消火方法をとること。  
 安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 飲み込んだ場合: 無理して吐かせないこと。

眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚(又は毛髪)に付着した場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を石鹸と水で洗うこと。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

温度が 40℃以上となる場所を避けて保管すること。

高湿度となる場所を避けて保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3. 組成、成分情報

#### 物質

単一製品・混合物の区別

混合物

	含有量	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
バリウムスルホネート 及び石油系炭化水素	5～15wt%	特定できない	特定できない
流動パラフィン	35～45wt%	(9)-1692	8042-47-5
モノオレイン酸ソルビタン	3～10wt%	(8)-63	1338-43-8
ラノリン	2～8wt%	特定できない	8006-54-0
LPG	35～45wt%	(2)-3 (2)-4 (2)-5	74-98-6 106-97-8/75-28-5 109-66-0/78-78-4

#### 危険有害成分：

化学物質管理促進法

対象物ではない

労働安全衛生法 第57条 表示対象物

ブタン、ペンタン、鉱油、トルエン

労働安全衛生法 第57条の2 通知対象物

ブタン、ペンタン、鉱油、トルエン

毒物劇物取締法

対象物ではない

### 4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

	<p>身体を毛布などでおい、保温して安静に保ち、直ちに医師の手当てを受ける。</p> <p>呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。</p>
皮膚(または髪)に付着した場合	直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
目に入った場合	清浄な水で数分間注意深く洗浄する。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄する。目の刺激が続く場合は、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないで、直ちに医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗浄する。
予想される急性症状及び遅発性症状、並びに最も重要な兆候及び症状	飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。眼に入ると炎症を起こす可能性がある。皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。ミストを吸入すると気分が悪くなることもある。
応急措置をする者の保護	現在のところ有用な情報なし。
医師に対する特別な注意事項	現在のところ有用な情報なし。

## 5. 火災時の措置

消火剤	<ol style="list-style-type: none"> <li>霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。</li> <li>初期の火災には、粉末、炭酸ガス消化剤を用いる。</li> <li>大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。</li> </ol>
使ってはならない消火剤	棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
火災時の特有の危険有害性	<ol style="list-style-type: none"> <li>高温となると、製品の破裂の可能性がある。また、その破裂に伴い、爆発や火災の拡大が起きる可能性がある。</li> <li>燃焼の際は、イオウ酸化物などの有害ガスが生成される恐れがある。</li> </ol>
特有の消火方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>周囲の設備等に散水して冷却する。火元への燃焼源を絶つ。</li> <li>火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。</li> <li>周辺火災の場合は、容器を安全な場所に移動する。</li> </ol>

## 消火を行う者の保護

消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置

高温となると容器破裂の恐れがあるので、安全が確認できない場合は近寄らない。破裂の可能性がない場合、消火用器材を準備する。作業の際には消火用種保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

1. 下水道・河川等に流出し二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。
2. 海上の場合：展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。止むを得ず危険範囲に近づく場合は蒸気の拡散状況を把握し(風向、風速、ガス濃度等)安全を確認する。

### 回収、中和並びに

### 封じ込め及び浄化の方法・機材

1. 蒸発しやすいので、速やかに全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。
2. 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立入りを禁止する。
3. 少量の場合：土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。
4. 大量の場合：漏洩した液は盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
5. 海上の場合：オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸取る。
6. こぼれた場合：液の拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は適当な吸収剤を使用して回収する。止むを得ない場合は薬剤を使用する。薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

### 二次災害の防止策

1. 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
2. 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
3. 内容成分は空気より重く滞留のおそれがあるので、換気・拡

散等を行う。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

1. 指定数量以上の量を取り扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
2. 熱、火花、炎、高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。危険物が残存している機械設備などを修理する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行うこと。
3. 皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。

#### 注意事項

1. 室内で取扱いを行う場合は、十分な換気を行う。
2. 換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。
3. 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

#### 局所排気装置・全体換気

「8. 暴露防止及び保護措置」を参照。

#### 安全取り扱い事項

1. ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
2. 炎、火花、または高温体との接触を避ける。みだりに蒸気を発散させないこと。
3. 吸い込んだり、眼、皮膚、及び衣服に触れないように、適切な保護具を着用する。静電気対策を行い、作業服、作業靴は導電性のものを用いる。人に向かって噴霧しないこと。

### 保管

#### 保管条件

1. 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
2. 容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
3. 危険物の表示をして保管する。

#### 技術的対策

熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。保管場所で使用する電気器具は、防爆構造とし、器具類は接地する。容器は必ず密栓すること。直射日光を避け保管する。

#### 注意事項

ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

#### 容器包装材料

容器に転倒や落下等の衝撃を加えない。衝撃により破裂することがある。

---

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	50ppm(トルエン)
許容濃度	1. 日本産業衛生学会 3mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミスト) 50ppm(トルエン) 500ppm(ブタン) 300ppm(ペンタン) 2. ACGIH 時間荷重平均 TWA5mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミスト) TWA20ppm(トルエン) TLV-TWA プロパン 1000ppm ブタン 800ppm ペンタン 600ppm
設備対策	1. 局所排気設備、全体換気装置を設ける。 2. 取扱場所近辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
保護具	
呼吸器の保護具	通常必要がないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
手の保護具	長期又は繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。
眼の保護具	必要に応じて保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	長時間にわたり取扱う場合または濡れる場合には耐油性の長袖作業服等を着用する。濡れた衣服は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。
適正な衛生対策	保護具は保護具点検表により定期的に点検する。 作業中は飲食、喫煙はしない。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

形状	液体(加圧容器内)
色	茶褐色
臭い	ほぼ無臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
引火点	-104℃以上

爆発範囲(爆発限界)	上限:19.0%(推定値) 下限:1.0%(推定値)
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
密度	0.713g/cm <sup>3</sup> (20°C、加圧容器内)
溶解度	不溶(水:20°C)
オクターノール/水分配係数	log Pow 2.30(イソヘンタン)~3.39(ノルマルヘンタン)
自然発火温度	287°C以上
分解温度	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
燃焼性(固体、ガス)	可燃性
流動点	データなし
粘度	データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	混色危険物質との接触。日光、熱、裸火、高い温度、スパーク、静電気、その他着火源を避ける。
混触危険物質	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触がないよう注意する。
危険有害な分解生成物	現在のところ有用な情報なし。
その他	現在のところ有用な情報なし。

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	すべての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、急性毒性(経口)は「分類できない」とした。
経皮	すべての成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、急性毒性(経皮)は「分類できない」とした。
吸入	区分 4:バリウムスルホネート液中の潤滑基油(5.0%未満) その他成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、急性毒性(吸入)は「分類できない」とした。
皮膚腐食性/刺激性	区分 3:バリウムスルホネート液中の潤滑基油等(6.0%未満)

眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	その他成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、皮膚腐食性/刺激性は「分類できない」とした。 区分 2:バリウムスルホネート液中の潤滑基油等(6.0%未満) その他成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性は「分類できない」とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	すべての成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、呼吸器感作性、皮膚感作性ともに「分類できない」とした。
生殖細胞変異原性	区分 2:バリウムスルホネート液中の潤滑基油(5.0%未満) その他成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、生殖細胞変異原性は「分類できない」とした。
発がん性	すべての成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、発がん性は「分類できない」とした。
生殖毒性	区分 1A:バリウムスルホネート液中のトルエン(0.1%未満) その他成分が「分類対象外」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、生殖毒性は「分類できない」とした。
特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)	臓器(肺)の障害のおそれ(区分 2)
特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)	長期または反復暴露による臓器(肺、皮膚)の障害(区分 1)
吸引性呼吸器有害性	飲み込んで気道に浸入すると生命に危険のおそれ(区分 1)

## 12. 環境影響情報

水生環有害性(急性)	区分 2:ペンタン(1.5%未満) その他成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、水性環境有害性(急性)は「分類できない」とした。
水生環境有害性(慢性)	すべての成分が「情報なし」、「区分外」もしくは「分類できない」なので、水生環境有害性(慢性)は「分類できない」とした。
残留性・分解性	現在のところ有用な情報なし。
生態蓄積性	現在のところ有用な情報なし。
土壤中の移動性	現在のところ有用な情報なし。
他の有害影響	現在のところ有用な情報なし。
環境基準	現在のところ有用な情報なし。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	1. 知事等の許可を受けた処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	2. 投棄禁止。 知事等の許可を受けた処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

#### 14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制	IMOの規定に従う
航空規制	ICAO/IATAの規定に従う。
国連分類	クラス2, 1
国連番号	1950
国内規制	下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
陸上	消防法の規定に従う。(第4類第3石油類)
海上	船舶安全法の規定に従う。(エアゾール類)
航空	航空法の規定に従う。(エアゾール類)
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 容器温度が40℃以上とならないように温度上昇防止を図る。

#### 15. 適用法令

労働安全衛生法	表示対象:ブタン、ペンタン、鉱油、トルエン 通知対象:ブタン、ペンタン、鉱油、トルエン
化学物質排出管理促進法 (PRTR法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	危険物第4類第3石油類 危険等級Ⅲ
水質汚濁防止法	油分排出規制(5mg/L許容濃度) ノルマルヘキサン抽出分として検出される
海洋汚染防止法	油分排出規制(原則禁止)
下水道法	鉱油類排出規制
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	産業廃棄物規制 (拡散、排出の禁止)

---

## 16. その他の情報

### 引用文献等

日本産業衛生学会許容濃度等の勧告(OELs)

Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices. ACGIH

European chemical substances information system

IRAC monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans volume 33.

---

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。この安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の取り扱いを対象としたものです。本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱って下さい。ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証もするものではありません。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。